



# 運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和元年9月号 第199号

(令和元年9月30日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール [tou-asu@netjoy.ne.jp](mailto:tou-asu@netjoy.ne.jp)

## ◆今後の事業日程

10月 7日(月)	都生連 役員会	協会事務所 12:30～
10月18日(金)	都生連 対話集会	都消費生活総合センター 17階教室Ⅰ・Ⅱ 13:30～
11月 6日(水)	都生会連 施設見学会	山梨県立リニア見学センター等 8:30～
11月20日(水)	都民フォーラム「地域活動は、今」	東京都教職員研修センター 視聴覚ホール 14:00～



おじゃまします 事務局です<113>



## ◆エコネット町田～真光寺川を清流にする会



ムクゲの花が咲く真光寺川

コンクリートの護岸から川床に降り立つとそこは不思議な空間であった。町の喧騒から逃れて、森閑とした中のせせらぎに身を置いたようであった。しかし、そんな感傷もつかの間、長靴を履いていたにもかかわらずコンクリート面のぬめりに足を取られて転倒寸前、態勢を立て直し何とか事なきを得ることができた。

千葉県に未曾有の大停電の被害をもたらした台風15号が近づいていた9月8日、毎月第2日曜日に行われる町田市内を流れる真光寺川の清掃ボランティアに参加させていただいた。当初、活動を取材させてい



この日の参加メンバー

ただくつもりで伺ったのだが、当たり前のようにゴミ袋と火ばさみ(ゴミはさみ)を手渡され、ここから上流の区間をお願いしますと指示された。長靴持参してくださいと事前に言われた真の意味が、これで納得である。

エコネット町田は、市内を流れる3つの河川の清掃ボランティアを行っているが、その一つ北部鶴川地区を流れる真光寺川の清掃を担っているのが、「真光寺川を清流にする会」である。真光寺川に清流をよみがえらせ、魚や鳥、ホタルや昆虫が戻り、子供たちの楽しい遊び場となることを願って、既に20年ほど活動を継続させている。毎月第2日曜日に例会を開催。透明度やPH・COD等の定点観測後、オペレーションと称するクリーン作戦(ごみ拾い)を実施するとともに、近隣の小学校の校外学習、高校のボランティア体験への協力などの活動のほか、毎年夏にはウォークラリー・笹舟レース・水鉄砲・魚捕りなどの川遊びを『真光寺川まつり』として実施している。



ボランティア用！ごみ袋と火ばさみ

この日の参加者は案内をいただいたエコネット町田の瀬川代表を含め11人。メンバーが高齢化しているとの話を伺っていたが、瀬川代表が4～5メートル下の川床に荷物を持ちながら何の躊躇もなくスルスルと降りていくのを見たときには、まだまだ大丈夫かなと思われた。何を隠そう私は、瀬川代表の後について梯子にしがみつく様にこわごわ降りたのだから…。



スルスルと川床へ降りていく瀬川代表

町の中に川が流れているのは景観としては素晴らしいことである。しかし、その自然が美しく保たれていなければ、むしろ台無しとなってし

もう、地域に住む人たちがみんながその自然を大事にしていくことは、〈わが町〉という愛着を一層高めてくれるはずである。そのことを「真光寺川を清流にする会」のメンバーは、今日も明日も黙々と清掃を通じて実践している。私もほんのわずかの時間、少しの区間のゴミを拾い、またこわごわと梯子を上り護岸の道路に戻った時、ごみのない川を見て、言い知れぬ充実感を味わうことができました。ありがとうございました。



実物の水槽を写したカード

### ◆新宿区角筈生活学校～豊洲市場見学会



新橋駅から都バスで豊洲に



晴海大橋からの景観



この日の参加メンバー13人

秋晴れの9月17日、昨年10月に開場した東京都豊洲市場を訪ねる、新宿区角筈生活学校の見学会に同行させていただきました。集合場所は新橋駅で、当日の参加者13人。豊洲市場へのアクセスは、〈ゆりかもめ〉で行く方法と、新橋駅か東陽町駅から〈都バス〉で行く方法があり、今回は階段の上り下りがない新橋駅から豊洲市場行きのバスに乗車した。途中、更地となっている旧築地市場跡、賑わいを見せている築地場外を横目に、隅田川にかかる勝鬨橋を渡り、オリンピック選手村の建物が立ち上がっている晴海を過ぎ、更に晴海運河にかかる晴海大橋を渡るといよいよ豊洲である。この晴海大橋からはタワーマンションが林立している、異次元の景観が望める絶好のポイントである。豊洲に入りバスは右折し、ほどなく豊洲市場に到着する。この間、30分ほど。

バスは管理施設棟のバス停に到着。そこから見学用ルートを通って、7街区の水産卸売場棟、6街区の水産仲卸売場棟を見学する。その他に、今回は見学しなかった5街区の青果棟がある。これら施設を見て回るのだが、広大な施設を回り、また施設と施設の間の通路もはるか先が霞んで見えるような長い渡り廊下を歩くようになっていく。階段がないのがせめてもの救いで、雨に降られず歩けるウォーキングと前向きに捉えるのが良いかもしれない。

今回の見学会は、もちろん競りが行われている時間帯ではないので、場内は閑散としているが、見学者は平日にもかかわらず多く来場していて、水産仲卸売場棟にある飲食店舗、物販店舗は多くの見学者でにぎわっていた。帰路、新橋駅に向かうバスの車中から築地場外の午前中よりも更に賑わっている様子が伺えたが、それに限らず勝鬨、晴海、豊洲などのベイエリアの際限ない発展の様子に、角筈生活学校のメンバーともどもため息交じりの感嘆の声をあげました。「東京、スゴイことになってるね。」

### ▽11月20日(水) 都民フォーラム「地域活動は、今」 東京都教職員研修センター 視聴覚ホール 14:00～

平成10年より平成30年まで21年間にわたり、環境問題をテーマに都民フォーラムを実施してきました。現時点においても、さらに将来を見通す上でも地球規模での環境に関する様々な問題は、欠かせない課題です。しかしながら、東京のあすを創る運動の展開は、地域で活動している実態、またそれを担う人々を抜きには考えられません。高齢化社会がピークに達しようとしている現在、生活学校、生活会議の運動、活動もメンバーの高齢化等により会の廃止、縮小を余儀なくされている実態もあります。もちろん、その中でも時代に即した、もしくはメンバーの実態に合わせた積極的な活動を展開している団体もあります。それらの活動実態を踏まえて、今後、東京のあすを創る運動のあり方を考える機会として、広く都民にも参加を呼びかけ、新しい令和の時代にふさわしいフォーラムを開催したいと考えています。テーマは「地域活動は、今」。

▽ひとこと グレタ・エルンマン・トゥーンベリさんが、「気象危機は危機として扱わなければならない!」「勉強より行動の時!」と訴えている。皆さんはどのように受け止めましたか。東日本大震災後の電力危機に際しての省エネや再生エネルギーへの転換の「熱」は、日本人の特性なのかいつの間にかすっかり冷めてしまいました。温室効果ガス削減は掛け声だけ。それは政治家だけではなく、私たちひとり一人もまた同じ。財政赤字の世代先送りと同じく、気象危機の先送りは無責任の極みか。何をすれば良いのか。答えは簡単。グレタさんが言うように、現実を直視し、行動するのみ。しかし、言うは易し、行い難し。と情けない大人はそれでも言い訳を並べ立て、行動を起こさない。ひとり一人、身近なところで、小さなことからでも一歩進めることはできるはず。いま一度、省エネしましょう。無駄はやめましょう。そんな些細な一歩でも、身近な生活学校、生活会議、のみならずあらゆる団体、グループがそして個人が実践すれば、「力」になります。未来を担う子供たちを嘆かせず、泣かせず、そして笑顔を取り戻せるようにしましょう。(竜)